

氏名： 杉野 勇 (SUGINO Isamu)  
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系  
職名： 准教授  
学位： 社会学修士 (1992、東京大学)  
専門分野： 理論社会学, 法社会学, 社会調査  
URL： [http://www.catnet.ne.jp/sugino/sugino\\_ws.htm](http://www.catnet.ne.jp/sugino/sugino_ws.htm)  
E-mail： [sugino.isamu@ocha.ac.jp](mailto:sugino.isamu@ocha.ac.jp)

#### ◆研究キーワード / Keywords

民事紛争/ワーク・ライフ・バランス/社会調査法  
Civil Dispute / Work Life Balance / Survey Methodology

#### ◆主要業績

総数 (3) 件

- ・新睦人・盛山和夫 (編), 2008.10, 『社会調査ゼミナール』, 東京: 有斐閣, (分担執筆)
- ・藤崎宏子・平岡公一・三輪建二 (編), 『ミドル期の危機と発達—人生の最終章までのウェルビーイング』, 東京: 金子書房, (分担執筆)
- ・杉野勇, 2008.05, 「[書評] 太郎丸博編著『フリーターとニートの社会学』」, 『社会政策研究』, 8, pp. 298-303.

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

民事紛争処理実態調査研究を継続し、それまでの雇用問題についての分析に加えて、問題類型を超えた紛争発生要因の探索的研究に携わった。またウェブによるパネル調査の基礎報告書を纏めた。「社会階層と社会移動全国調査」(SSM2005) に関しては、報告書論文を発展させて Work-Life Balance と格差論に関連する分析研究に着手した。また、サンプリング理論を初めとして社会調査方法論やその教育方法についての研究を開始した。

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

2008年度の学部の社会学の入門的講義では、Anthony Giddensの『社会学（第3版）』を使用して、都市と都市的生活様式、日常生活における相互行為、犯罪と逸脱、

社会階級・階層と不平等、マスメディアとコミュニケーションなどのテーマについて講義した。

演習においては、アジアの家族とジェンダー、ジェンダーの意義は低下したか？、ワークライフバランス、ライフスタイルやライフコースと選好理論などのテーマについて集中的に学習と討論を行った。

社会調査法の授業では、調査票の作成からデータ収集と計量分析までの全プロセスを年間を通じて実施し、調査報告書を纏めた。

大学院の演習では、前年度をうけて Case Study Research の発展的な学習を行い、定性データ分析やインタビューの方法論について重点的に学習と批判的検討を行った。

## ◆研究計画

- 1) 民事紛争処理実態調査の分析・研究を纏める（紛争の発生メカニズム、雇用問題）
- 2) 社会階層と社会移動研究との関連でワーク・ライフ・バランスについての実証的考察を行う
- 3) 少子高齢化に関する大規模全国調査に着手する、4) 社会調査法、計量分析のテキストを作成する

## ◆メッセージ

私たちは、しつけや教育などの「社会化 socialization」を経なければ、きちんとした「社会人」になれません。その意味で「規範」や「常識」を内面化 (internalization) することはとても重要です。しかし同時に、そうした規範や常識を対象化してよく考えてみることも極めて重要です。自分達の手が直接届く範囲の割合はますます小さくなり、メディアなどによる情報や疑似体験に否が応にも巻込まれざるを得ない。その中で、経験的・実証的な証拠や事実に基づいて (evidence-based)、かつ論理的・分析的に思考をする (critical thinking) ということの重要性は強調し過ぎることはありません。他方で、規範や常識、趣味嗜好の社会的定式は、自分のアイデンティティと呼ばれるものを形成する要因でもあります。社会の理解と自己の理解が表裏一体であることの淋しさと面白さを共に実感することが大切です。